
情報番号：教育技法—12

テーマ：交流分析

編著者：IBEX-T

1. 交流分析とは

1954年、アメリカの心理療法学者エリック・バーンが考えた人間行動の心理療法を指すが、研修ではこれを用いた人間関係訓練の方法をいう。通称はTA (transactional analysis) という。もともとはフロイトの精神分析とワトソンの行動心理学を土台にした心理療法であったが、人間理解のための手段に使えることがわかり、企業人などの研修技法として活用されるようになった。

対人間の交流の仕方を分析する手法であり、良好な対人関係をつくりあげていくためにこの交流の枠組みを活用していく。したがって研修では、対人関係訓練やコミュニケーション、感受性訓練の一環として活用される。

医学面では1971年ころから九州大学医学部で、企業内では1973年ころから大手企業を中心に導入されるようになり、現在では研修の柱として実施されるようになっている。